

ワーカーズ

http://www.workers-net.net/
mail workersnet@workers-net.net

毎月1日発行 1部150円 半年1000円(郵送)
郵便振替 00180-4-169433 (ワーカーズ社)

2018/9/1 586号



今号の内容

- ・『黒田金融緩和』―黒田日銀の破綻とアベノミクスの本末転倒― ②③
- ・杉田水脈議員の打算と無知・同性愛者が示唆する深い社会的基礎 ④
- ・日本近現代史「一五〇年」を学び直そう ④⑤⑥
- ・コラムの窓・・・ ⑥
- ・読書室 白井聡氏著『国体論 菊と星条旗』集英社新書 ⑦⑧
- ・何でも紹介 夏の夜空に花が咲く花火大会 ⑧⑨
- ・エイジの沖縄通信・NOS3 ⑨⑩
- ・読者からの手紙 ⑩
- ・色鉛筆・・・ ⑩

絶望の選択となる自民党総裁選挙と希望の選択となる沖縄県知事選挙

安倍一強の五年余の暴政、戦略は米
国追随、戦術は今だけ金だけ自分だけ
の強権発動に支持・不支持が拮抗する
今、「人事で干す」で竹下派の石破支
持は二分され、岸田氏と野田氏は出馬
断念する。かくて九月には衆人注視
の、安部三選を巡る絶望の選択となる
自民党総裁選挙と希望の選択となる
沖縄県知事選挙がある。勿論、一方が自
民党員だけの選挙であり、他方は全
国選挙でなく沖縄県だけの知事選挙で
あるという違いはあるが…。

総裁選挙は国会議員票四百五票と党
員等の地方票四百五票の計八百十票の
奪い合い。マスコミは安倍総理が細田
派などの主要派閥を中心に国会議員票
の約七割を確保し、前回の総裁選時石
破氏に大敗した党員票でも圧勝すべ
く、今回安倍総理は必死だと伝える。

山梨県鳴沢村の別荘で夏休みを取っ
た総理は、八月二十日には日本会議に
関係する地方議員の会合に出席し、
二十五・二十六の両日は宮崎、鹿児島
両県を訪れ、地元首長から災害対策の
要望を聞くと共に党会合で講演した。
日本会議が総理の力の源泉なのであ
る。

安部一強の五年余の暴政、戦略は米
国追随、戦術は今だけ金だけ自分だけ
の強権発動に支持・不支持が拮抗する
今、「人事で干す」で竹下派の石破支
持は二分され、岸田氏と野田氏は出馬
断念する。かくて九月には衆人注視
の、安部三選を巡る絶望の選択となる
自民党総裁選挙と希望の選択となる
沖縄県知事選挙がある。勿論、一方が自
民党員だけの選挙であり、他方は全
国選挙でなく沖縄県だけの知事選挙で
あるという違いはあるが…。

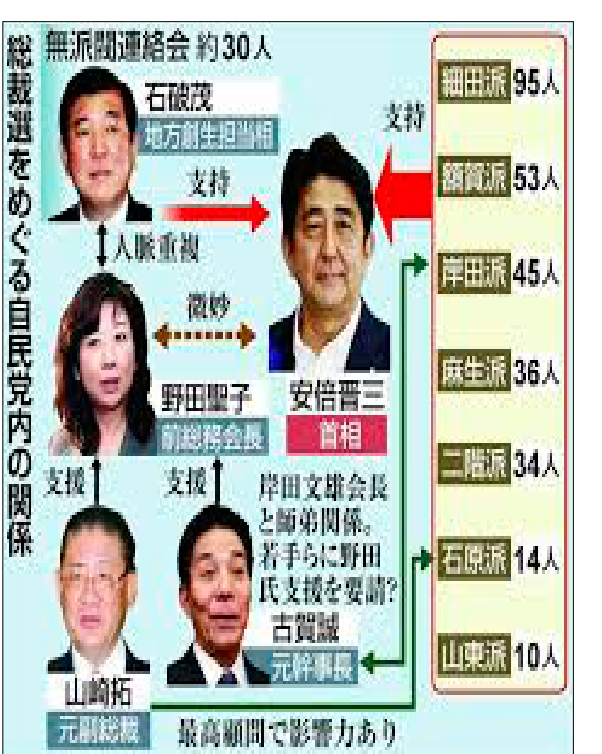
この戦術に石破氏は正直・公正を突
きつけモリカケ問題等での政策論戦を
挑むも、論戦が出来ない安倍総理は逃
げ回る。まさに異常である。

この戦術に石破氏は正直・公正を突
きつけモリカケ問題等での政策論戦を
挑むも、論戦が出来ない安倍総理は逃
げ回る。まさに異常である。

この事はこれまでの闘いの成果であ
ると共に翁長知事が埋め立て承認を撤
回すると思意表示の結果でもある。そ
してこの対決回避は自民党の県知事選
挙勝利に向けた対県民融和策でもあ
るのである。

この事はこれまでの闘いの成果であ
ると共に翁長知事が埋め立て承認を撤
回すると思意表示の結果でもある。そ
してこの対決回避は自民党の県知事選
挙勝利に向けた対県民融和策でもあ
るのである。

山梨県鳴沢村の別荘で夏休みを取っ
た総理は、八月二十日には日本会議に
関係する地方議員の会合に出席し、
二十五・二十六の両日は宮崎、鹿児島
両県を訪れ、地元首長から災害対策の
要望を聞くと共に党会合で講演した。
日本会議が総理の力の源泉なのであ
る。



玉城デニー氏、佐喜真淳氏

いざともに闘わん! (直)

開き直りと無責任さ

「黒田日銀の破綻とアベノミクスの本末転倒」

この9月末に行われる自民党総裁選挙では、安倍総裁の三選が確実視されている。その安倍内閣の支持率が底堅いのは、第二次政権発足時に打ち出したアベノミクス第一の矢、金融緩和での「ザブライズ」によるところが大きい。

とはいえ、第二次政権発足から5年半、すでにアベノミクスのメッキは剥がれ落ちている。安倍内閣を支持する理由でも、アベノミクスへの評価は少ない。単なる「他の内閣より良さそうだ」というのがダントツの一位だ。有権者も、なんとなく現状への安住に傾いているのだらう。

ただ、アベノミクスでのザブライズと、大企業・軍事優先政治、それに戦前帰郷の改憲策動をワンパッケージとみれば、なんとなく安住、などとはいってられない。

◆開き直りと無責任さ

その政策目標、初任の5年間で、なんと6回も先送りを余儀なくされたものだった。現に、足元の物価上昇は先月の7月で0・8%昇を2年で実現する。と市中に出回るお金を二倍にするという「黒田バズーカ砲」第一弾を華しく打ち上げていた。

それから5年、今年4月の黒田総裁の二期目の再任劇は、アベノミクスの破綻を告白する2%の物価上昇目的を撤回することから幕明けした。バズーカ砲は3回、4回と打ち込んだが、それが空砲でしかなかったことを自ら認めたかたち

撤回の言い訳も空々しい。黒田総裁の言い分は、「2年で2%の物価上昇」は単なる「見直し」に過ぎないが「コミット（約束）」だと誤解する人がいるのでもう掲げない。掲げておくと、金融緩和の出口戦略や追加緩和を要求する声が出かねない、なので、現在の金融緩和を続けるための持続性を考慮して目標を掲げないことにした、というものだ。撤回は周囲の「誤解」のためだという典型的な

《黒田金融緩和》

で複雑な何段階もの雇用・処遇形態の正規社員が大量につくられているのだ。結果が物語っている。労働者の賃金は全く増えていない。むしろ安倍政権以前から官制春闘を演出したアベノミクスを含めた過程でも、傾向的に低下しているのが現実なのだ。

異次元緩和の功罪の「功」の部分の事情がそんな程度のなか、「罪」の弊害も目立つてきた。国債などの債券市場の機能不全、日銀の上場投資信託（ETF）買入れによる株式市場の変調、低金利の結果としての銀行経営の悪化や、年金資金の目減り、首都圏の不動産の値上がり、アパート投資の破綻など、資産バブルの進行やその縮小など。

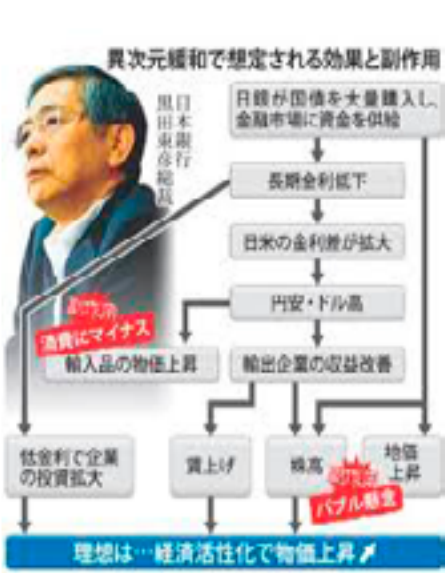
現在、震災からの復興特需やオリンピック関連投資、万博誘致、それに外国人旅客の増加などで経済は底堅いとしても、イベント中心のカンフル剤頼みのテコ入れ策ではいつ息切れするかわからない。

それに国債の値下がり——金利上昇——財政破綻のリスク、度が過ぎた緩和策によるハイパーインフレのリスクなど、経済危機の火種は確実に蓄積されているのだ。

またこのところ好調を維持している有効求人倍率の改善や失業率の減少も、アベノミクスの結果とはとてもいえない。少子高齢化の進行で、団塊世代の大量リタイアや若年労働力の減少など、15才〜65才の労働力人口の減少で労働力需給が逼迫しているだけだ。それに、就業が増えているといっても、高齢者や女性が増えているだけで、しかも、正規社員が非正規雇用置き換えられているのが実情だ。

この数年、たしかに正社員も増えている。が、その正社員、地域限定正社員とか新型正社員とか、要するにかつてはほぼ全国一律だった長期雇用・年功賃金・ボーナス・退職金という絵に描いた様な正社員ではない。今では元々の正社員と非正規の間に、低処遇

で複雑な何段階もの雇用・処遇形態の正規社員が大量につくられているのだ。結果が物語っている。労働者の賃金は全く増えていない。むしろ安倍政権以前から官制春闘を演出したアベノミクスを含めた過程でも、傾向的に低下しているのが現実なのだ。

田総裁にも当てはまる。総裁にしても副総裁にしても、結果責任など頭にならないのだ。そんな連中が旗を振ってきた無力で本末転倒な金融緩和など、ただちにお蔵入りさせる以外にない。

◆修正策の“逐次投入”

黒田総裁は、5年前の就任会見で、「戦力の逐次投入」はしないと明言した。最悪の戦術だとされてきたからだ。ところが、黒田総裁は、事実上の緩和策の失敗を認めるのを拒む一方、異次元緩和策を一つ、また一つと修正・転換してきた。

市中に大量のお金を投入する量的緩和策で、当初は年間50兆円の買い増し、その後、80兆円としてきた国債購入。それを徐々に減らし、今年4月0兆円台にまで減らしてきた。成果は上がらず、副作用ばかり目立ってきたからだ。日銀の保有高がいまでは発行総額

レ経済に突入したのは、経済のグローバル化で政府と財界が選択した経済戦略によるところが大きい。要は、コスト削減至上主義だけを頼りにした輸出主導型経済で、新興国が台頭するグローバル世界に臨んだからだ。

成長戦略はどれもうまくいかず、長時間労働ばかり蔓延させても労働生産性は落ちるばかりだ。輸出のためのコスト削減（＝リストラ）で雇用・賃金破壊を進めれば少子高齢化も止まられず、国内市場は縮小し、消費不況でデフレ経済に陥ることは当然だからだ。現に、本格的なデフレ経済は先進国では

日本が最初に遭遇したのだ。安倍首相や黒田総裁が狙うインフレターゲットは、アベノミクスが登場した時点でも指摘したが、そもそも政策目標たり得ないのだ。

デフレとは、一言でいえば供給力に対する需要不足で起こる現象だ。売りたいモノも買手が付かない結果、モノやサービスの価格がじりじり下がっていく。そうしたデフレ経済のなかでいくら市中（銀行）に大量の資金を投げ入れたところで、投資や雇用は向上くはずもない。またせつせと国債を買い込むか、あるいはその一部が「マネーゲーム」に向かうのが関の山なのだ。

経済対策で真っ先にやるべきなのは、消費の拡大に繋がる政策、具体的にはほとんど雇用拡大と賃上げだ。政策目標はあくまで「豊

かで安定した暮らし」のはずだ。そしてこれは労働者、労働組合の闘いの課題でもある。にもかかわらず、アベノミクスは、「お金は、まず企業へ」だ。金融緩和や財政出動で円安を誘導して輸出を拡大、株価を押し上げて企業の含み益を拡大する、それが廻り廻って労働者の賃上げに繋がりが、やがてはデフレ脱却に繋がると、というのがアベノミクスだ。

が、現実には、企業が稼いだ利益は内部留保や役員報酬に充てられ、賃金には廻らない。アベノミクスは本末転倒、順序がアベコベ、ベテンかあるいは毛針に過ぎないのだ。

世論調査によると、現状への満足感がじわりと増えているという。内閣府がこの8月24日に公表した国民生活に関する世論調査の結果によると、現在の生活に「満足」と答えた人は74・7%（前年比0・8%増）で、2年連続で過去最高を更新したという。改革への諦めや対案が見えていないせいもあるのだらう。

アベノミクスは、成長率主義やインフレ・ターゲットなど、自動車操業のGDP神話に縛られ、煽られたものだ。それは

追いつめて手に入るものではない。「豊かで安定した暮らし」は、政治の仕事、政府の政策では実現できない。まずは労働者自身の、労働組合の闘いでめざすべきものという初心に戻る以外にない。

杉田水脈議員の打算と無知……

同性愛者が示唆する深い社会的基礎

杉田議員への国際的非難は、安倍側近ジャーナリストが引き起こしたレイプ事件において、あるいはとか被害者である伊藤詩織さんの「おちど」を攻撃したことに始まる。

BBCがこの件で特集報道をした。それにづく時代錯誤とも思える同性愛者「非生産的」？という決めつけが、さすがに国内世論にも火を着けた形だ。

杉田議員の思想・スタンスは、安倍政治の産物だと考えられる。同時により過激であり、観念的で無節操でもある。(権力欲者の特色だろう。)過去の「Twitterなどを見ると「反目的なるもの」「非正常なるもの」(と彼女が思っていたものは)に次々に杉田議員の攻撃的となり排除すべきものとされた。それは「思想」などというもののレベルではなく、兎に等しく見える。一貫性が少しでもあれば、長期安倍政権の下で注目を集めて権力の中枢に上り詰めたという卑しただけだろう。

◆同性愛には自然史的視点も必要

話は変わるが、「同性愛」の問題は変わるが、「同性愛」の問題

◆各時期の論争点を『近現代日本史と歴史学』で

さて高校教科書の『日本史』を踏まえて、各時代ごとに日本の歴史学で何が論点になってきたか知るには、成田龍一著『近現代日本史と歴史学』書き替えられてきた過去(中公新書)がお勧めです。

この本では、山川の『日本史』の叙述を引用しながら、「明治維新(開国・倒幕・維新政府)」、「自由民権運動の時代」、「日清・日露戦争の時代」、「大正デモクラシー期」、「アジア・太平洋戦争の時代」、「戦後社会論」の各時代ごとに、歴史叙述がどのように変遷したかを解説しています。成田氏は戦後の歴史学研究は、三つの時期に分けられると指摘しています。

第一期は、敗戦後からの歴史学で、「経済史」をベースにしています。第一期は、敗戦後からの歴史学で、

「そもそも性交渉とは、優劣を解消する行為でもあります。」

「サル(ニホンザルなど)の間にオス同士の性的興奮が伴う性行動がおきない理由は・明確な順位付けがされていない(るからで)・オス同士で性行為をしようとする間に混乱が起り、社会の崩壊を招きかねません」(つまり)「ゴリラはサルと違って優劣を意識しません。」(これが同性愛を受け入れられる理由だと――阿部)

「私は、霊長類の研究を通じて、人間には同性愛行動を起しやすいい性質が進化の遺産として受け継がれている、と考えるに至っています。」*****

山際論に対してはいろいろと疑問を抱かざるを得ない。それは、阿部文明

とはいえ「日本近現代史一五〇年」は膨大で、大部の『歴史全集』等を読破する時間は、普通の労働者にはとてもありません。かといって、お手軽な一冊の新書や文庫の『近現代史』では、それなりに「分かり易い」けど、執筆者のバイアスがかかっており(右であれ左であれ)、どうしても偏ってしまい、歴史修正主義者との「客観的歴史論議」には不十分です。

そこで、僕なりに次のように勉強していることを紹介したいと思います。

◆まずは高校教科書『日本史』から

見解の異なる他者と「歴史」について論議するには、まずは「共通のベース」が必要です。その評価はともかく、最低限、日本の高校生レベルで「政府公認」の共通

問題が今回注目を集めたことはじつ道理。同性愛も「人権」「権利」として認めるべきだ、その視点から杉田議員の暴言を批判するのは正しい。とりわけ「同性愛カテゴリーが、子供を生めない＝非生産的」などの論理は批判されて当然だ。

しかし、私見ではもっと話しを深めてほしいとも考えるのである。というのは、未開社会、原始社会に関心がありさらには霊長類に関心がある私としては、「人間を含めて自然界において同性愛は異例でも異端でもない」ことを知っているからだ。同時に真に生物的に「同性愛が非生産的」なのであれば、進化的に淘汰されるはずだが、そうはなっていないのだ。これらの専門家たちもその事実を知っている。

とくに高等動物と言われるイルカやゴリラ、ボノボなどの同性愛行動は良く知られている。いずれも社会性が高い種だ。未開社会でも伝統的に同性愛がみられ、事実上の結婚生活が認められているケースも知られている。ゆえに、「生産的か非生産的か(子供を生むか否か)」という次元を超えたところで同性愛(カッ

フアカチュアの発達など国民経済を重視する見方)に置くか、「ベリール来航」(世界資本主義を重視する見方)に置くかが論点となります。

第二期は、一九六〇年代からの歴史学で「民衆の闘い」に注目するようになります。これは当時の「安保闘争」や「ベトナム反戦運動」、「アジア、アフリカ、ラテンアメリカ人民」など内外の民衆運動の高揚を反映し、その視点から歴史を見直そうとするものでした。「民衆の闘いが歴史を進める」という見方です。

第三期は、一九八〇年代からの歴史学で、「社会史」の視点が強調されるようになります。これは「ジェンダー」や「地球環境」など様々な社会問題が露呈し、新しい資料の分析も進んでいく状況を反映しています。この「社会史」を重視する歴史学の様子は、今日まで続いています。分析対象が多様化・個別化するなど、やや「焦点ぼけ」し、未だ試行錯誤の段階にあるのも否めません。しかし例えば「幕末期の社会制度が、明治維新後の制度に引き継がれている」ことや「戦前の総力戦体制が、戦後の高度成長体制に引き継がれている」など、社会制度的な観点を提起していると言えます。

私達に大切なことは、「歴史修正主義」の問題ばかりに目を奪われ、歴史学全体のこうしたパラダイムシフト(経済史・民衆史・社

◆山際寿一氏の同性愛論の紹介

国際的な類人猿研究者で、文化批評などでも活躍している山際氏は「同性愛」について論じた数少ない研究者の一人だ。

『「サル化」する人間社会』(集英社インターナショナル)から、発言を少し拾ってみよう。

安倍晋三首相が、九月の自民党総裁選挙で「三選」をめざして、組織固めを画策しています。三選の大目的が「憲法九条の改正」(自衛隊の明記)であることは、本人も公言していますし、彼を取り巻く「保守派」も同じです。

その安倍首相の拠って立つ歴史観は、九〇年代から台頭してきた「歴史修正主義」であると言っており、韓国併合や満洲建国を「ロシアの脅威」から正当化し、日中戦争を「国民政府の責任」と正当化し、アジア太平洋戦争を「米英の包囲網」から正当化し、戦後の平和憲法を「戦勝国の押し付け」と否定したい心情がベースになっています。

戦後の歴史教育が、朝鮮や満洲に対する植民地支配を反省し、中国や東南アジアに対する侵略戦争



中では、満洲の軍事的経済的開発、朝鮮における軍事的目的の鉄道・資源開発や農業開発の問題を捉える必要があるでしょう。また、その源を開発や農業開発の問題を捉える必要があるでしょう。また、その源を開発や農業開発の問題を捉える必要があるでしょう。また、その源を開発や農業開発の問題を捉える必要があるでしょう。

●岩波新書『日本近現代史』シリーズで最新の知見を

高校教科書『日本史』で得る共通認識をベースに、『近現代日本史と歴史学』で示される歴史学上の論争点を踏まえて、いよいよ各時代ごとにやや詳しい歴史を学ぶ段階に進むことができます。

岩波新書『日本近現代史』シリーズは、二〇〇六年から二〇一〇年にかけて、十冊が刊行されていますが、それは歴史学研究の最新の成果を踏まえ、第三期の「社会史」の各領域の様々な歴史叙述を、現時点で総括しようとする試みだと言えます。

①『幕末・維新』井上勝生、②『民権と憲法』牧原憲夫、③『日清・日露戦争』原田敬一、④『大正デモクラシー』成田龍一、⑤『満洲事変から日中戦争へ』加藤陽子、⑥『アジア・太平洋戦争』吉田裕、⑦『占領と改革』雨宮正一、⑧『高度成長』武田晴人、⑨『ポスト戦後社会』吉見俊哉、⑩『日本の近現代史をどう見るか』岩波新書編集部編。それぞれ新資料により「通説」を実証的に批判する野心的編集となっっています。

新書本一冊読むのに一週間としても、十冊読むには二〜三箇月はかかりますが、必要に応じて高校教科書『日本史』や『近現代日

問や批判もあるとは思いますが、人間が「対等性社会」の形成へと進化を伴いつつ歩んできたことと「同性愛(婚)」は無関係ではないと思われ。未開社会での「同性婚」で女性の場合の報告をよんだことがあります。その社会的意義とは？またの機会にご紹介したいと思います。(阿部文明)

「日本近現代史一五〇年」を学び直そう

「歴史修正主義」の論争で言うなら、とくに一九三〇年代からの日本の「総力戦体制」構築へ向けた動き全体の

◆歴史学を基礎に「歴史修正主義」と対峙を

中では、満洲の軍事的経済的開発、朝鮮における軍事的目的の鉄道・資源開発や農業開発の問題を捉える必要があるでしょう。また、その源を開発や農業開発の問題を捉える必要があるでしょう。また、その源を開発や農業開発の問題を捉える必要があるでしょう。また、その源を開発や農業開発の問題を捉える必要があるでしょう。

また「憲法九条」論争で言うなら、「平和憲法」は単に「戦勝国」(GHQ)の圧力のみではなく、敗戦の過程でインシアチブを握った日本支配層のリベラル勢力が「外圧」を利用した要素をどう評価するか。「平和」条項には第一次世界大戦後の「パリ条約」における「不戦」条項の理念が引き継がれているなど、「世界的潮流」との関連もとらえるべきでしょう。

また当然のことながら「中国近



現代史」や「韓国・朝鮮現代史」も同時並行して学ぶ必要がありませぬ。そもそも日本の歴史は、古代から近代を通じて、中国や韓国・朝鮮の歴史と密接に連関して進んできたわけですから。

特に歴史修正主義者が「韓国併合」

（植民地支配）を正当化する理由として、「朝鮮は経済が未発達で自力では近代化できなかった。日本が保護国として開発したからこそ近代化できたのだ。」という主張が問題となります。

これに対して従来から「日本と朝鮮は近世まで同じような社会経済発展をたどり、小農民やマニュファクチュアも発達し、近代化の潜在的要素は日本と同様だった。日本の植民地支配が朝鮮の自生的な経済発展を阻害した。」との反論がなされてきました（梶村秀樹

『朝鮮史』など）が、それはどの程度そう言えるのかは、実証的に論ずる必要があります。単に「経済史」だけでなく「社会制度史」からの補強も必要かもしれません。また唯物史観の側の「アジア停滞論」（アジア的生産様式論の狭い解釈）の総括とも関わる問題です。これについては、別の機会に述べたいと思います。

ともあれ、歴史修正主義と対峙するためには、最低限でも高校教科書『日本史』を学んだ上で、『近現代日本史と歴史学』（成田龍一）

原子力発電のたそがれ！



私は何より原発の電気と縁を切りたいと大阪ガスに切り替えたの

新聞報道によると、経済産業省が大手電力による顧客引止め、不当な顧客囲い込みの規制に乗り出したようです。例えば、我が家にも「以前、関西電力とご契約いただいたおお客様へのおトクなお知らせ」なるものが来ていました。それによると、①7月1日から電気料金の値下げ、②2000円QUOカードプレゼント、③関電ガス契約で基本料金2ヶ月無料、だそうです。

関西電力は7月27日、今年度第1四半期の純利益18%減と発表しました。家庭向けの顧客流失の歯止めがかからず、電力販売量の減少が続いているということです。料

金値下げ競争の泥沼のなかで、関電に残された道は更なる原発への依存しかありません。福井県の若狭湾に11基の原発を持つ関電ですが、すでに4基は廃炉、3基は40年越えの老朽原発、まさに満身創痍です。

4基がかりうじて稼働となっていますが、高浜3・4号機は定期検査中で、4号機は8月20日に原子炉容器の上蓋（うわぶた）に設置された温度計の接続部分から放射性物質を含む微量の蒸気が漏れて9月中旬の営業運転予定が延びるようです。しかも、高浜3・

4号機はプルサーマルなので、使用済みとなる燃料（プルトニウムとウランの混合酸化物・MOX燃料）の処理に頭を悩ますことになるでしょう。

関電があまり込んだ経営的泥沼は、原発が持つている欠陥によるものです。もうとくに経済的には成り立たない原発にのみみつくり、事故が起きたら破滅、使用済み核燃料は溜まるばかりで処理不能、廃炉となった原発は死重となつてのしかかる、残るは国策としての核保有だけ。これに従うことによつて、利益を得ようとする電力資本とこの構造でいう構図で



8・25 高浜原発 このまま廃炉！
関電包囲電国集会
関電さん、ガスを売るよ！廃炉の励め！
美浜はこのまま廃炉！
高浜は再稼働するな！
大飯は今すぐ止めろ！



電力資本とこの構図でいう構図で、なかで、東電は原発事業の再編を模索しています。中部電力や日立、東芝と団子になつて経費削減

そうしたなかで、東電は原発事業の再編を模索しています。中部電力や日立、東芝と団子になつて経費削減



（晴）

「国体論 菊と星条旗」 白井聡氏著 集英社新書

国体とは全国各地で開催される国民体育大会のことではない。戦前の日本の国家体制は天皇を頂点とする国家体制だったが戦前はそれを国体と呼んだ。

そしてポツダム宣言を受諾するか否か、又国体が護持されるか否かと議論は紛糾したが、昭和天皇の「聖断」が下されたとの神話は今でも維持されている。だが天皇は事前に護持を確認していたのである。

それでは戦後にも国体はあるのだろうか。白井氏はかつて国体の頂点には天皇がいたが、戦後日本のその地位には天皇ばかりではなく驚くべきことに米国が加わったのだという。

明治維新から敗戦までの天皇と国民の関係。そして敗戦から現在までの米国と日本の関係を分析し、両者の関係が相似形だと歴史を追って白井氏は論証し

井氏の著作を取り上げた。6月号に「増補「戦後」の墓碑銘」を、7月号に「戦後政治を終わらせる 永続敗戦の、その先へ」を書いた。今月号も彼の著作を取り上げた。

このように3ヶ月間も連続して白井氏の著作を取り上げてきたのは、これらの3著作が白井氏の鋭い問題意識から、私たちが常に啓発し続け示唆に富む実在に充実したものとなっているからに他ならない。そして本書こそは白眉の本である。

では本書の目次を紹介する。

序 なぜいま、「国体」なのか
年表 反復する「国体」の歴史
第1章 「お言葉」は何を語ったのか
第2章 国体は二度死ぬ
第3章 近代国家の建設と国体の誕生（戦前レジーム：形成期）
第4章 菊と星条旗の結合―「戦後の国体」の起源（戦後レジーム：形成期1）
第5章 国体護持の政治神学（戦後レジーム：形成期2）
第6章 「理想の時代」とその蹉跌（戦後レジーム：形成期3）
第7章 国体の不可視化から崩壊へ（戦前レジーム：相対的安定期）
第8章 「日本のアメリカ」―戦後の国体」の終着点（戦後レジーム：相対的安定期、崩壊期）
終章 国体の幻想とその力

白井氏はまず明治維新以来の日本の「国体」、つまり万世一系の天皇とその赤子（国民）で構成された「永遠の家族」とする「天皇制」が、実は明治維新に成立した時点から矛盾を抱えていたことを切開する。それは日本の現実の歴史に投射すると天皇自らが実効的に政治支配者として君臨した時代は短く、むしろ例外的ですらあったからだ。即ち時代によって支配統治の政治的形態（政体）は変化した。政治の次元を超越した権威者として天皇は常に変わらず君臨してきた（国体）という秩

序感である。

つまり明治時代前の天皇制とは実質的「権力」（政体）と精神的「権威」（国体）が分かれていたのである。

この考え方は、近代の国体の最大の危機（敗戦と占領支配・属国化）において、やがて巨大な役割を果たすことになる。

戦後の国体の起源は1942年確定の米国の戦略謀報局（OSS）の構想にあった。

昭和天皇の戦争責任を問わないことや象徴天皇制を存続されるの政策判断は既に決まっていたのである。詳しくは私、直のブログ2016年2月1日の「加藤哲郎氏著『象徴天皇制の起源 アメリカの心理戦「日本計画」』を今また再読する」をぜひ参照されたい。

マッカーサーとの会見で天皇が「戦争の全責任は自分にある」と発言したとの彼の証言は神話となった。それは自分達の君主は高潔な人格であり、それ故にマッカーサーが感動し敬意を抱いた。つまり米国は「日本の心」を理解したと考えた動機で生まれたのだ。

ここにおいて彼は昭和天皇を戦争責任から守る征夷大將軍となり、天皇退位を迫る勢力から天皇を守る究極の勤王の志士となる。かくてマッカーサーの下で戦前国体は、天皇制の存続・戦争放棄・沖縄の犠牲化の「戦後国体」の三位一体となり、完成したのである。

マッカーサーが憲法私案の即時承認を迫ったのも、極東委員会が開催される前に米国主導で決めて置きたかったからに他ならない。つまり米国が天皇利用をするためである。

安倍総理は憲法を押しつけられたと言いが、その内実は天皇を戦後支配に利用したいがため、ソ連やオーストラリア等から天皇を戦争責任から守るために急いだのである。

こうして戦後日本は天皇制民主主義の国家に変貌した。偽デモクラシー国家の誕生である。要するに主権は天皇からマッカーサーに移動した。その事実には戦後日本の武装解除を決定した権力と同じ権力が1950年の朝鮮戦争に際し一切の民主的プロセス抜きで一片の政令により再軍備（自衛隊前身の警察予備隊の創設）を命令したことで現れた。

そして日本を「独立」させたサンフランシスコ講和条約は、同時に結ばれた日米安保条約とワンセットであった。安保条約での米国の要求は「我々が望むだけの軍隊を望む場所に望む期間だけ駐留させる権利」である。要するに戦後日本は天皇が自ら望んで属国になったのだ。

白井氏によれば戦前戦中の保守支配層はかつて自らが主導して「鬼畜」と呼んだ相手に膝を屈して取り入ることで自らの復権の機会を掴み取り、それと引き換えに

読書室

ここ二ヶ月続けて読書室では白



白井聡の「国体論 菊と星条旗」は、戦前戦中の保守支配層はかつて自らが主導して「鬼畜」と呼んだ相手に膝を屈して取り入ることで自らの復権の機会を掴み取り、それと引き換えに

自発的に主権を放棄した。革新陣営も米国の強制的民主化を支持してそれを補完した。そしてこの国家主権の構造は占領終結でも変わらず、日米安保体制として現在まで続いているのである。

白井氏は、江戸時代に典型的なように現実的な権力はしばしば天皇と並び立ち、時に凌駕する権威性を帯びるとする。

占領下の日本に君臨した天皇に対する救世主として登場したマッカーサーの許には推定約五十万通の手紙が全国から集まった。その多くにはマッカーサーを天皇以上の、あるいは天皇に代わる権威として崇め奉る心情が溢れていると白井氏は紹介して次の注を付けた。

「昔は私たちは、朝な夕なに天皇陛下のご真影を神様のようにあがめ奉ったものですが、今はマッカーサー元帥のお姿に向かってそう致して居ります」（『拝啓マッカーサー元帥様―占領下の日本人の手紙―岩波現代文庫』）

朝鮮戦争時、原爆を使用せよと要求したマッカーサーがトルーマンにより解任され帰国するに際し、天皇を庇護したマッカーサーを讃えるためマッカーサー神社を建立する計画が持ち上がった。発起人は秩父宮を始め田中耕太郎最高裁長官、金森徳治郎国会図書館長、野村吉三郎開戦時駐米大使等の錚々たる人々であった。しかし当のマッカーサーの日本人の精神

年齢は十二歳だとの発言で、日本人の崇拜心は一挙に萎んでしまったのである。

ここでまた白井氏が付けた注を紹介したい。「帰国したマッカーサーが、世界中から注目していた五月三日から始まった議会の公聴会で『日本人は十二歳の少年』ぐらゐの知的成長であると言明したため、この神社設立の意気込みは、『神』に裏切られた怒りと軽率な憧れに対する赤恥に耐えられず、一夜にして消えた」（『國破れてマッカーサー』西舘夫氏著中公文庫）

このことは日本人の心性では当然の展開であった。白井氏は主に日本人の心性の分析から戦後国体を論じてきたが、私にはそもそも彼の議論の進め方に難点があると考える。

端的に言えば日本人の心性から日本の政治制度を分析するのではなく、日本の政治制度から戦後の日本人の心性を詳しく分析する必要がある、と私自身は考えるからである。

実際、この事を最初に明らかにしたのは「律令がわかれば日本が分かる」とした日本の法制史学者の齋川眞氏である。『天皇がわかれば日本がわかる』（ちくま新書1999年）でその事実を解明した。研究熱心な白井氏も残念ながらこの本は知らないようだ。

齋川氏は日本の国家体制論を明快にまとめた。日本の国家体制は

古代から現代まで4区分できる。

それは（1）部族社会（2）奈良から江戸（拡大部族制十律令制）（3）明治から戦前（拡大部族制十律令制）＋（イギリス土プロシヤ型政体）（4）戦後（拡大部族制十律令制）＋（イギリス土プロシヤ型政体）＋（アメリカ型政体）の4区分である。

齋川氏によれば日本に革命（レヴォリュション）思想がない以上、日本の国家体制は過去から現在に至るまで順々に積上げ多層化したものとならざるを得ない。要するに日本は混合政体という国家体制であり、無思想・無規範という特徴を持つと齋川氏は主張する。

だから欧米社会では中世のカトリック教会支配体制を打破し近代国民国家を創り出す市民革命があったが、日本ではそれは国家体制上起こりえない。

したがって今の日本は未だに欧米で言えば教会の権威に相当する律令官僚＝天皇教が隠然たる影響力を持ち、日本社会の隅々に拡大部族制がタコソボとして存在するプレモダン（前近代）社会なのである。

こうした背景を考えれば、安倍総理に付度し、かつ総理の関与を隠すために現代の律令官僚達が平然と虚偽証言や公文書の改竄に手を染めて一向に恥じない現状も、またこうした国家官僚の明白な犯罪行為を捜査も逮捕もしない警察・

検察官僚達の現状も、さらには伊調セクハラ問題等を始めとして次々と明るみに出た事件や日理事長やボクシング協会山根会長や

夏の夜空に花が咲く花火大会

私はここ数年夏になると地元の花火大会に出かけている。7月の末は山の上にあるホテルの花火大会。夜7時半から始まるので4時頃のシャトルバスに乗って花火を見る場所取りをして、持参したビールとおつまみでほろ酔い加減になると「ヒュードーン」と花火が上がりが始める。クライマックスでは芝生の上に寝転んで見ていると、上がった花火が降るように落ちてくるので両手を上げて歓声をあげている。ところが、昨年と今年は何故か雨が突然降りだし、慌てて荷物を片付けカッパを着て傘をさして雨と風に耐えた。周りをみると親子連れがレジャーシートをベビーカーにかぶせていたり、

若いカップルは土砂降りの雨に濡れながら笑い合っている等々、みんな帰らず耐えていた。いったいどうなることかと思っていると、何故か雨が止んで必ず花火が上がるとのだから面白い。花火大会には雨が付きものかもしれない。でも芝生が濡れていて寝転んで見られないのが残念だった。

そして、8月の初めは海上花火大会。運のよい事に漁船をやっている従兄弟の船に乗せてもらい海から花火を見る事ができる。夜7時半から始まるが船は5時半に出航。海風が心地よく、沖から見る街の景色もなかなかいいものだ。漁師仲間の船数隻と繋がってプカプカ浮きながらみんなで持ち寄ったお酒やおつまみで盛り上がり、すっかりできあがった頃に花火が上がります。海上に浮かぶ2台の台船から「これでか！」という勢いで打ち上げられる花火は、1時間に1万発の乱れ打ちだから見ごたえがある。打ち上げ花火は360度どこから見ても同じ形に見えるというのだから不思議だ。見晴らしがよく遠方からでも見えるので大勢の人たちが暑い夏の夜、外に出て涼みながら夜空に花が咲く花火を見る事ができるのだらう。



全日本剣道連盟「居合道」部門での金銭授受の不正が常態化していた事実に至るまでの日本スポーツ界の全く呆れた果てた現状も実に

よく理解できる。「平成」が終わろうとする現代でも、其処彼処にいる親分やお局支配、すなわち拡大部族制が社会の

たお酒やおつまみで盛り上がり、すっかりできあがった頃に花火が上がります。海上に浮かぶ2台の台船から「これでか！」という勢いで打ち上げられる花火は、1時間に1万発の乱れ打ちだから見ごたえがある。打ち上げ花火は360度どこから見ても同じ形に見えるというのだから不思議だ。見晴らしがよく遠方からでも見えるので大勢の人たちが暑い夏の夜、外に出て涼みながら夜空に花が咲く花火を見る事ができるのだらう。

さらに今年は、県の花火大会人気ランキング1位のふくろい遠州花火大会に行ってきた。家から車で2時間ほどかかるので、旅行会社のバスツアーを利用した。15時にバスに乗ると雨が降り出しあつという間にゲリラ豪雨！友人と「花火できるかな」「また雨だね」「笑うしかないね」と笑い合っていた。道路が冠水している中をバスが進んでいくと、雨がやみ同じ市内なのに雨が降った跡もないのだから驚いた。この頃全国各地で大気の不安定によって局地的大雨が降っていた。今年は西日本集中豪雨、猛烈な暑さ、逆走台風と異常気象で今までにないことが起こったが、政治も同じで悪い事を

よく理解できる。「平成」が終わろうとする現代でも、其処彼処にいる親分やお局支配、すなわち拡大部族制が社会の

す。夜空に咲く花に見とれたり、音と光を体中に感じて元気な気持ちになれるので機会があったら花火大会に足を運んでみて下さい。雨具をお忘れなく

（美）

に定めることに疑問が投げられてきた。沖縄市では「慰霊の日」を休日とする。一方、1993年全国で初めて市町村独自の「沖縄市民平和の日」を条例で制定した。この条例制定により、9月7日を「沖縄市民平和の日」と定め、毎年9月7日に記念行事を実施している。

2. 沖縄戦の「裏の戦争」とは？
今話題の映画「沖縄スパイ戦史」を紹介したい。本土決戦を迎える前の「時間稼ぎ」「捨て石」として闘われた沖縄戦。

その沖縄戦の実相や悲劇は多くの証言や著作・映画で語られてきたが、この映画は戦後70年以上語られなかった陸軍中野学校の「秘密戦」に焦点を当てた作品である。

長期かつ緻密な取材で本作を作り上げたのは2人の女性監督。映画「標的の村」「戦場ぬ止み」「標的の島 風かたか」で沖縄の米軍基地の闘いを描いた三上智恵

最根底部に存続し続ける日本の特性から全てを認識すべきなのである。（直木）

それでも平気で嘘をついても首相でいられるとは前代未聞の出来事が起こっている。

それから雨は降らずバスの駐車場から会場まで歩いて行くと、地元の人たちがお気に入りの場所にシートを広げたり、会社の前でパーベキューをしたりしていた。地元ではない私たちは有料席に座り綺麗な夕焼けを見ながら持参したビールとおつまみで花火が上がるのを待った。河川敷の会場だけではなく周りも人、人、人、全国から約40万人も集まったという。19時から21時までの2時間、2万5千発の花火が次々に上がってくるのを間近で見られたのはすごかった。

まずは「ヒュー」と一本の光が空高く上がり「ドーン」の音と共に「パツ」と綺麗な菊花火が夜空に大きく輝き、一瞬に消えてしまわが一瞬の華やかさが心に残る。さあそこから「スターメイン」といっていくつもの花火を組み合わせて、短時間に数十から百発の玉を連続的に打ち上げる花火で形や色もいろいろで「バリバリ」と音もすごい。すると今度は「メロディースターメイン」。「天国と地獄（運動会の競走の時のよく流れる）」の曲に合わせて上がる花

兵らの証言であぶりだされる。精神に異常をきたすなど足手まといになった者は、命令で幼なじみの手で射殺されたという。情報が敵に漏れないように住民をマラリアのはびこる島へ強制移住させる、住民同士を監視させて密告させる組織をつくる、さらにスパイ・リストに基づく住民虐殺・・・映画が伝えるのは、軍が住民を手駒のように使い、本土決戦に向けた「捨て石」とした沖縄戦のやりきれない闇の深さだ。軍隊は本当に住民を守る存在なのか。監督をした三上智恵さんと大矢英代さんの問いは、今も続く沖縄の問いでもある。

現在、東京の「ポレポレ東中野」やその他の劇場で先行上映されている。是非、多くの人に観て欲しい作品である。

3. 横田に米空軍オスプレイ正式配備！

政府は米軍横田基地に米空軍CV22オスプレイ5機を、10月1日に正式に配備することを発表した。沖縄以外に米軍オスプレイが配備されるのは初めてとなる。さらに、米軍は今後段階的に配備機数を増やしていき、10機態勢にすると宣言。

空軍CV22は潜入作戦などで特殊部隊を輸送するのが任務で、夜間や低空飛行など

トイズの沖縄通信 「沖縄戦」や「オスプレイ」

N053

1. 本土の8月15日と沖縄の6月23日

今年も8月15日「終戦記念日」を迎えた。この8月15日を「終戦の日」とする事に疑問が指摘され、「敗戦の日」すべきとの主張もある。

また、「世界基準」からすれば玉音放送があった8月15日は「終戦」ではなく、戦艦ミズリー号で降伏調印した9月2日こそが「終戦の日」との主張もある。

実は沖縄戦においても、同じような問題が指摘されずと議論が続いてきた。ご存知のように、沖縄では6月23日を「沖縄慰霊の日」と定め休日にして、摩文仁の平和公園で毎年追悼式を開催する。この6月23日とは第32軍司令官牛島満



ミズリー号船上での降伏調印式



沖縄市記念行事での写真展

司令官等が自決した日で、日本守備隊の組織的戦闘が終わったと言われている。しかし実際は「最後の一兵まで闘え」という命令のもと、残存した日本軍は6月23日以降も沖縄周辺で戦闘を継続した。その残存した日本軍が公式に降伏文書に



映画（沖縄スパイ戦士）

政府は米軍横田基地に米空軍CV22オスプレイ5機を、10月1日に正式に配備することを発表した。沖縄以外に米軍オスプレイが配備されるのは初めてとなる。さらに、米軍は今後段階的に配備機数を増やしていき、10機態勢にすると宣言。

の過酷な条件での運用が多いので、海兵隊MV22オスプレイより事故率が高いと指摘されている。私の住む静岡県御殿場・東富士演習場もオスプレイの訓練区域になっている。

普天間の海兵隊MV22オスプレイは、普天間↓岩国↓横田↓御殿場の順に飛んできて東富士演習場で訓練を繰り返している。

今度の空軍CV22オスプレイは、横田↓御殿場となるので訓練頻度が当然多くなることは間違いない。

米軍機が日本の空をどんな飛び方をしても「日米地位協定」上、日本側が運用に関与できない。これで本当に私たちの安全が確保されるのか？

これまで米軍機の事故や米兵の事件が多発し多くの犠牲者を出してきた沖縄県は、何度もこの「日米地位協定」の根本的改定を訴えてきたが、まったく日本政府は動かなかつた。

4. 佐賀に自衛隊オスプレイ配備！

横田に米軍オスプレイ配備が決定したと思いきや、今度は自衛隊オスプレイが佐賀空港へ配備されること。

8月24日佐賀県の山口祥義知事は、自衛隊初となる陸自輸送機V22オスプレイを佐賀空港に配備する計画を受け入れると正式表

明した。また、オスプレイ配備に反対姿勢を示してきた地元漁協であるが、今回漁業幹部は県知事の協議開始の申し入れを受け入れ、今後協議する考えを示した。

国と佐賀県のオスプレイ配備の合意ポイントには、①国は20年間に100億円の着陸料を支払う。②県は着陸料を元に漁業振興基金などを創設する。③防衛省、県、漁業組合などの関係機関で、環境保全と補償を検討する協議会を設置する。となっている。

また、金である。政府は言う事を聞かせるために莫大な金(私たちの税金だ)を出す、県知事も地元漁協幹部も金を当てにして危険



な軍用機の配備を認めてしまう。こうした構図は沖縄でも岩国などでも同じように見られる。危険なオスプレイが民間空港に配備されるリスクをどう考えるのか？このオスプレイが長崎県・陸

読者からの手紙 旅の途中の「一枚のピラ」

先日日本へ行く途中、航空時間の便宜上、横浜の親戚の家へ泊まることにして、久しぶりに横浜中華街を見物してまわった。沢山の中国人が行き来している。

路上でピラをまいている人達が居た。興味をもって近づくとカラー刷りの写真を載せたピラだった。内容はある宗教団体が人々に訴えるものだった。

自相浦駐屯地に新設された離島防衛専門部隊「水陸機動団」の隊員輸送を担うことになるが、その事をどう考えるのか？等の諸問題をしっかりと討議すべきだと考える。(富田 英司)

それは先の中国首相・習近平を糾弾して裁判にかけようを要求したものだ。習氏は中国の経済政策の地球的経済プラン「一帯一路」(あるいは逆の一路一帯か)、ともかく昔のシルクロードにならって、東から西に陸路、海路で各国をつないで、EUにならって経済圏をつくらせて、その通路にある国々のインフ

しかしこの訴え、あるいは政治宣伝が街頭でなされるということとは、日本側の許容力の広さか、政府側の汎アメリカ、反中国の宣伝の一部か、あるいは正義感(これは多分ない)からか、はわからない。しかし、いづれにしても「いや」

人間ドックで病気が見つかりました

職場の検診で人間ドックを申し込み受診しました。超音波検査で、腹部リンパ節が腫れており、受診したそ

の日に血液内科がある病院を紹介されました。それから精密検査を重ね悪性リンパ腫と診断されました。心も身体も追いつかないまま、職場に病気を休職を申請し治療が始まりました。

最初は、生体検査のため外科入院して、開腹手術をしました。外科は、毎日手術があり、大勢の先生たちに手厚くみていただきました。

昔と違ってパソコンの時代、引き継ぎはパソコンの共有の中で進められることが多いです。患者さんに一生懸命接してそのあと廊下でパソコン入力をしている看護婦さんたち、時間外労働も多いのではと心配しました。入院生活では、今日の体調を確認しあったり、抗がん剤の副作用対応を教えてください、毎日心強いです。支え合って生きていくことが、本来の人間同士の繋がりがだと強く感じました。この経験を大事にし、毎日を大切にしていきたいと思えます。(志)

色鉛筆

色鉛筆